

第2節 交通安全意識等に関するアンケート調査

1. アンケート調査実施概要

- (1) 調査方法 : インターネットアンケート。
- (2) 調査地域 : 全 国
- (3) 調査対象 : 16 歳以上の男女 (NTT ナビスペース (株) が運営する「ナビリサーチ」の登録モニター)
- (4) 調査日時 : 2009 年 8 月 13 日 (木) ~17 日 (月)
- (5) 有効回答数 : 2,072 サンプル

: 有効回答数の年齢比、性別比、居住地域における有効回答数の構成比率は、総務省統計局が公表している平成 20 年 6 月時点の人口推計定値に基づく比率と整合させた。各セグメント別の有効回答数は下表の通り。

	男性							女性							総計
	16~ 24 歳	25~ 29 歳	30~ 39 歳	40~ 49 歳	50~ 59 歳	60~ 64 歳	65 歳 ~	16~ 24 歳	25~ 29 歳	30~ 39 歳	40~ 49 歳	50~ 59 歳	60~ 64 歳	65 歳 ~	
北海道エリア	6	4	8	7	9	4	8	6	4	8	8	10	4	10	96
東北エリア	11	6	12	12	15	6	15	10	6	12	12	15	6	19	157
北関東エリア	8	5	10	9	11	5	10	8	5	10	9	11	5	11	117
南関東エリア	40	26	58	45	49	23	43	36	24	54	41	48	24	48	559
うち東京都	15	10	22	17	17	8	16	14	10	21	16	17	9	19	
北陸・甲信越エリア	9	6	12	11	13	6	13	9	5	11	11	13	6	16	141
中部エリア	17	10	23	19	22	10	20	16	10	22	18	22	10	23	242
うち愛知県	9	6	12	9	10	5	9	8	5	11	9	10	5	10	
近畿エリア	23	13	30	24	29	14	28	23	14	31	25	31	15	33	333
うち大阪府	10	6	14	10	13	7	12	10	6	14	11	13	7	14	
中国エリア	8	5	10	9	12	5	11	8	5	10	9	12	6	14	124
四国エリア	4	3	5	5	7	3	7	4	3	6	5	7	3	8	70
九州・沖縄エリア	16	9	17	17	22	9	21	16	9	19	18	23	10	27	233
うち福岡県	7	4	7	6	8	3	7	6	4	7	7	8	4	9	
総 数	176	109	233	194	229	105	213	168	106	229	192	232	110	252	2,072

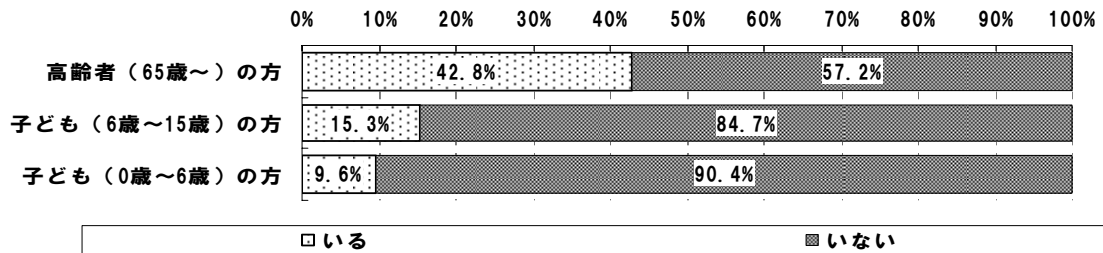
- (6) 調査票 : 参考資料参照

2. アンケート調査結果概要

(1) 属性

■家族構成（問5）

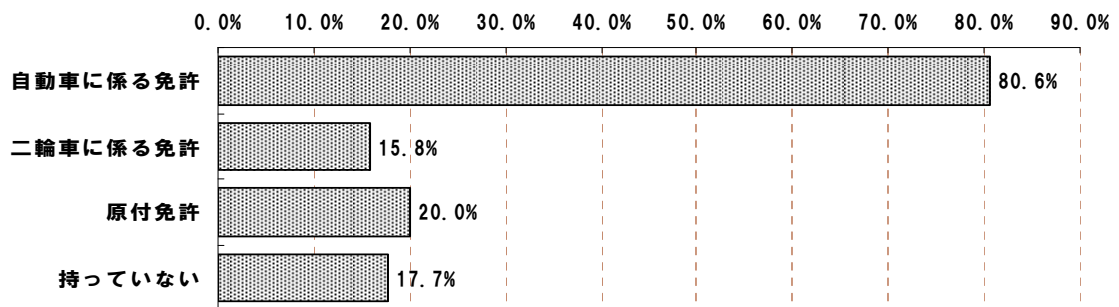
- 家族に高齢者がいる回答者は全体の 42.8%（887 人）、6～15 歳の子どもがいる者は 15.3%（318 人）、0～6 歳の子どもがいる者は 9.6%（199 人）。



■免許保有（問6）

- 自動車免許保有者は全体の 80.6%（1,669 人）、二輪車は 15.8%（328 人）、原付は 20.0%（415 人）。免許非保有者は 17.7%（366 人）。

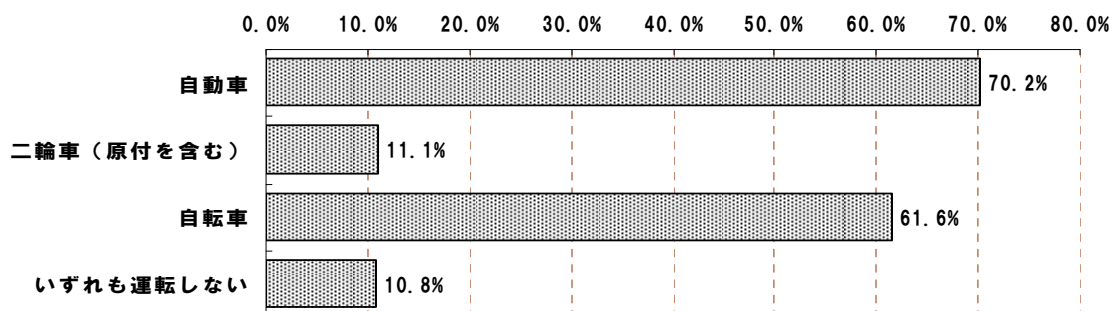
(n=2072)



■運転経験・頻度（問8）

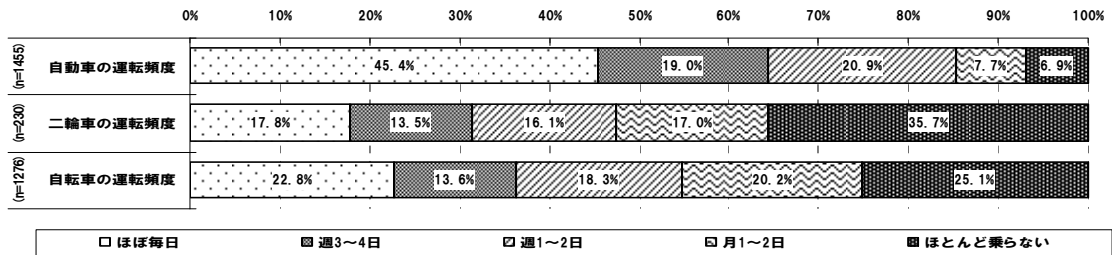
- 回答者が自身で運転する車両については、自動車が 70.2%と最も多く、次いで、自転車が 61.6%、二輪車が 11.1%であった。一方、いずれも運転しない人は、10.8%。

(n=2072)

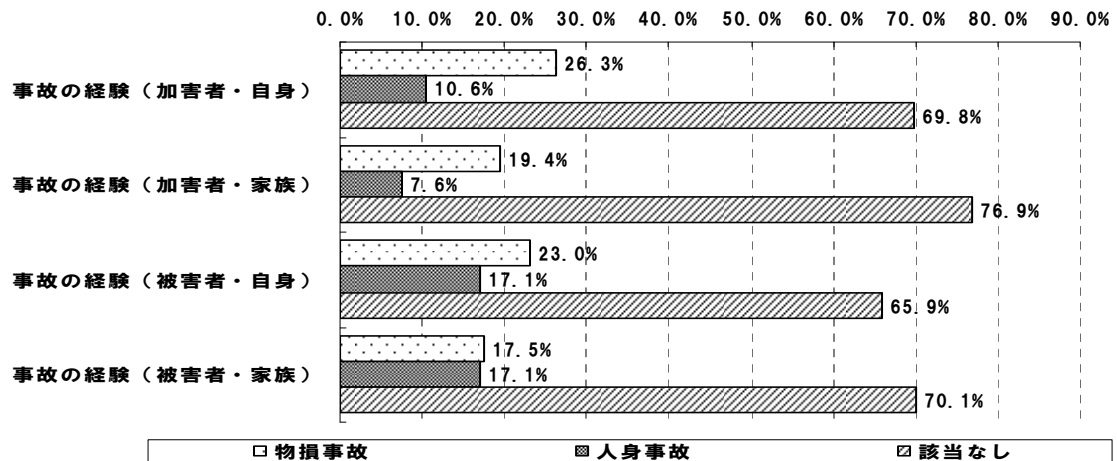


■運転頻度（問9）

- 自動車は、「ほぼ毎日」と回答した人が最も多く 45.4%を占めている。反対に、「ほとんど乗らない」と回答した人は 6.9%であった。
- 二輪車は、「ほとんど乗らない」と回答した人が最も多く 35.7%を占めている。
- 自転車は、各回答の割合に大きな差はなかった。

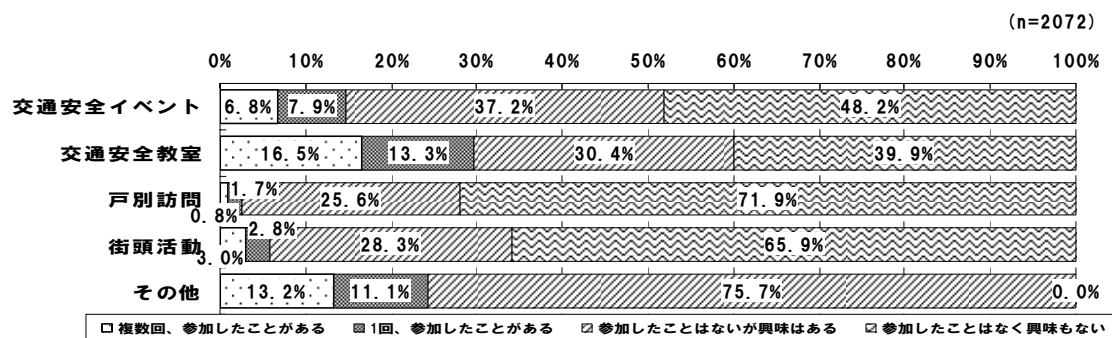


■交通事故経験（問11）



■交通安全活動への参加経験（問26）

- 交通安全イベント : 「参加したことがある」と回答した人は14.7%。
- 交通安全教室 : 「参加したことがある」と回答した人は29.8%。
- 戸別訪問 : 「参加したことがある」と回答した人は 2.5%。
- 街頭活動 : 「参加したことがある」と回答した人は 5.8%。
- いずれの活動にも参加したことがないと回答した人は 66.5%。

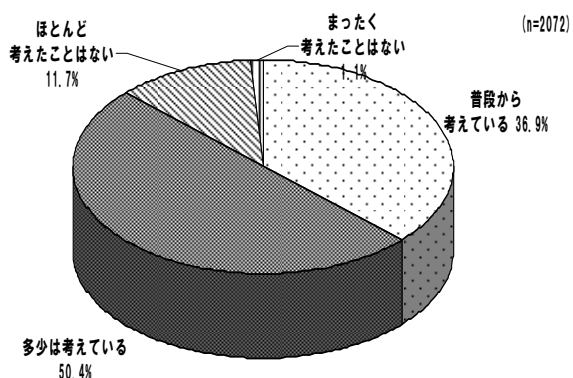


(2) 交通安全に対する意識

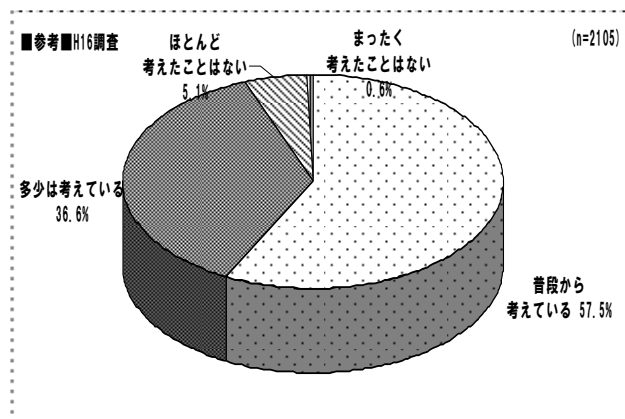
■交通安全についてどの程度考えているか（問 22）

- 「普段から考えている」「多少は考えている」は合わせて 87.3%。一方、「ほとんど考えたことはない」、「まったく考えたことはない」は合わせて 12.8%。

<今回（H21）>



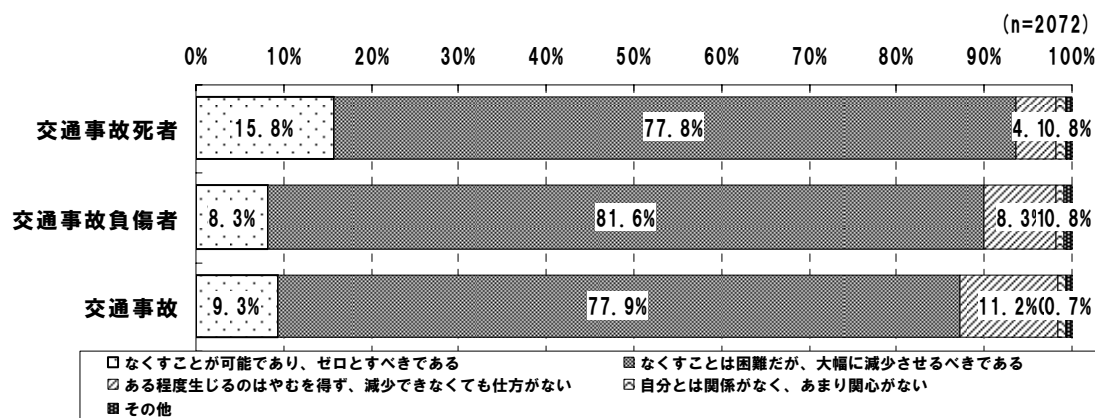
<前回（H16）>



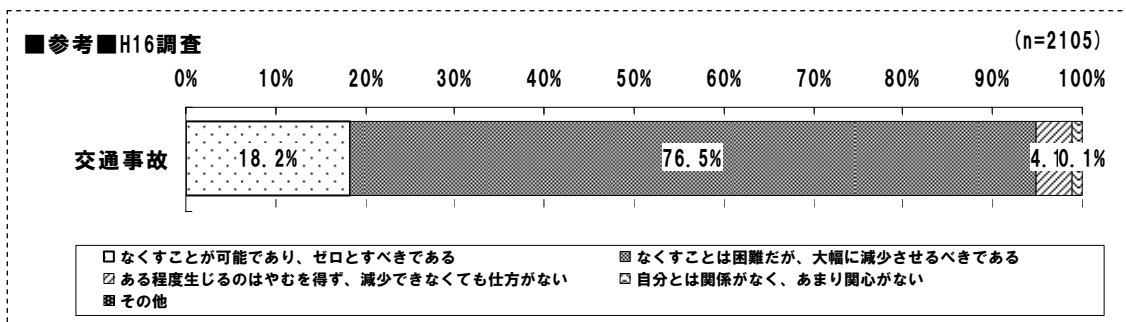
■交通事故についての考え方（問 18）

- 交通事故死者、交通事故負傷者、交通事故については、「なくすことは困難だが、大幅に減少させるべき」との回答が最も多く、いずれの場合も 7 割以上を占める。
- 中でも交通事故死者について、「なくすことが可能であり、ゼロとすべき」と回答した者も 15.8%存在する。

<今回（H21）>



<前回（H16）>

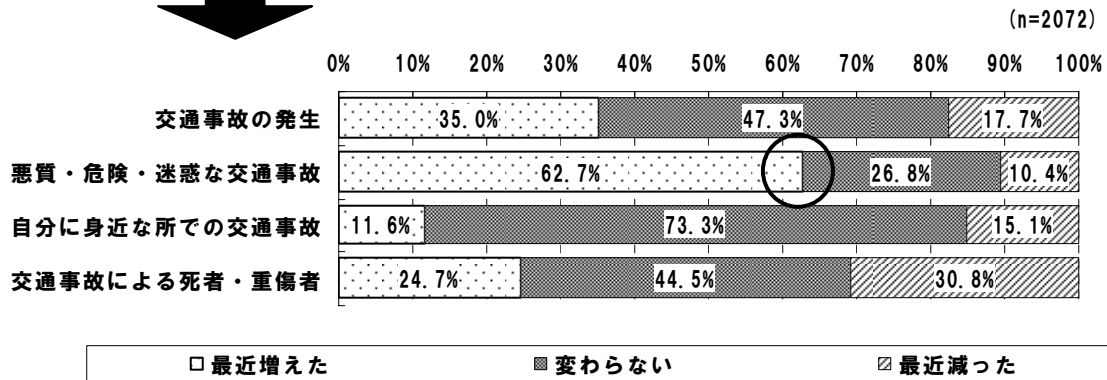
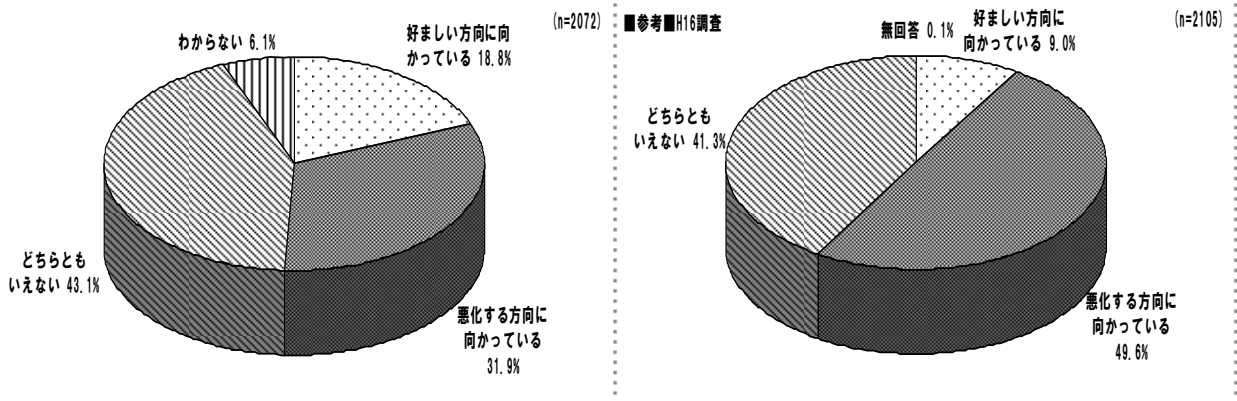


■交通事故情勢をどうとらえているか（問 13・問 14）

- 近年の交通事故情勢について、「好ましい方向に向かっている」と回答した者が全体の2割弱（18.8%）、「悪化する方向に向かっている」と回答した者が3割（31.9%）。前回調査（H16）では「悪化する方向」が半数近く（49.6%）を占めており、「好ましい方向」は1割にも満たなかった（9.0%）ことを考えると、交通事故情勢は好転しているとの意識が醸成されているものと考えられる。
- その詳細について聴取したところ、「交通事故による死者・重傷者」について「最近減った」と回答する者が多い一方で、「悪質・危険・迷惑な交通事故の方向性」について「最近増えた」と回答した人が6割（62.7%）を超えている。

<今回（H21）>

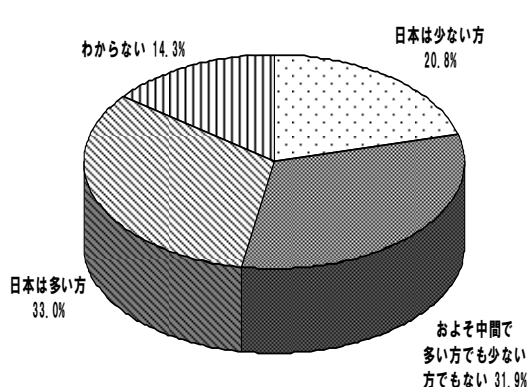
<前回（H16）>



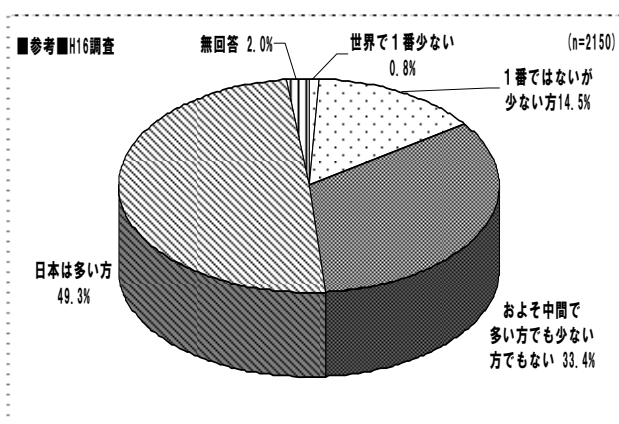
■日本の交通安全事情のイメージ①：国際比較（問 15）

- 日本の人口あたりの交通事故死者数のイメージ（国際比較）について多かった回答として「日本は多い方である」が 33.0%、「日本はおよそ中間で、多い方でも少ない方でもない」が 31.9%であり、ほぼ同程度。一方、「日本は少ない方である」との回答は 20.8%。
- 参考までに、前回調査（H16）では「日本は多い方である」（49.3%）が半数近くを占めており、日本は少ない方である（「世界で 1 番少ない」と「1 番ではないが少ない方である」の合計）と回答した者は 15.3%とであった。

<今回（H21）>



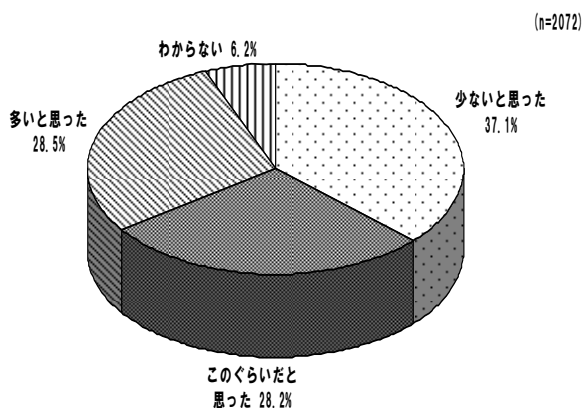
<前回（H16）>



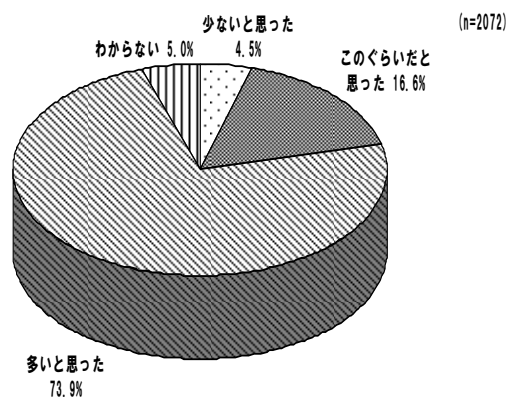
■日本の交通安全事情のイメージ②：交通事故死者数・死傷者数（問 20・問 21）

- 平成 20 年の実績を元に、交通事故死者数・同死傷者数のイメージを聴取したところ、死者数実績（5,155 人）については、「少ない」もしくは「このくらい」と思う者で全体の 7 割弱（65.3%）を占める一方、死傷者数実績（約 95 万人）については「多い」と思う者が 7 割超（73.9%）を占める。

<死者数 5,155 人（14.1 人/日）の印象>

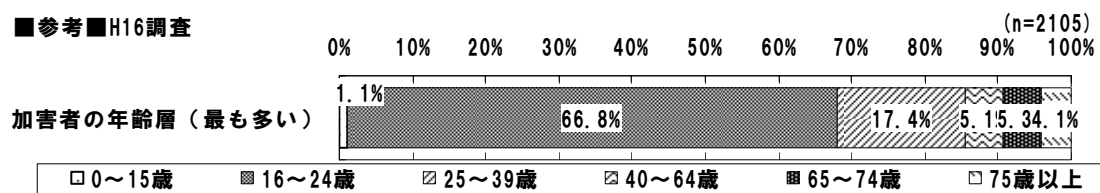
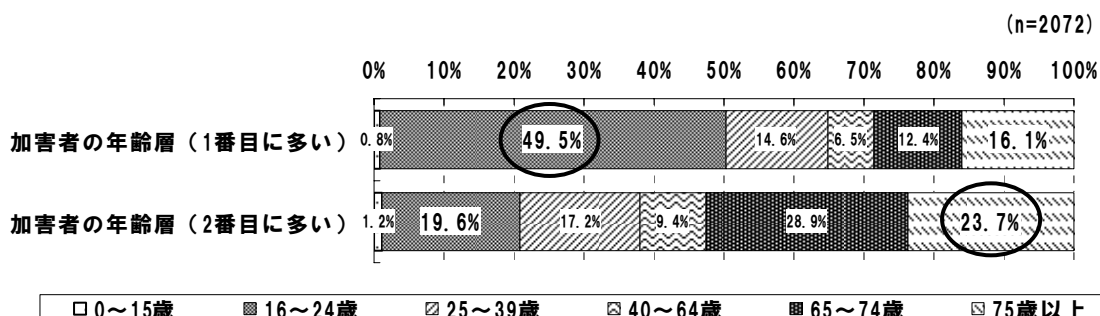


<死傷者数約 95 万人（約 2,600 人/日）の印象>



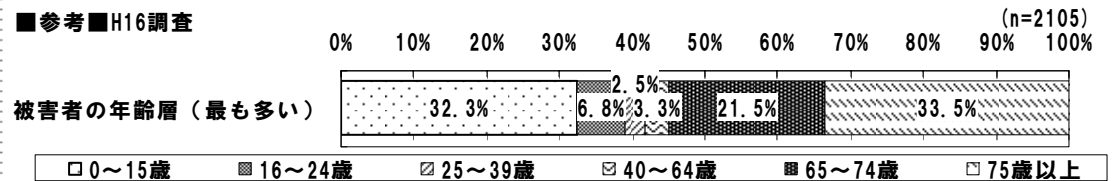
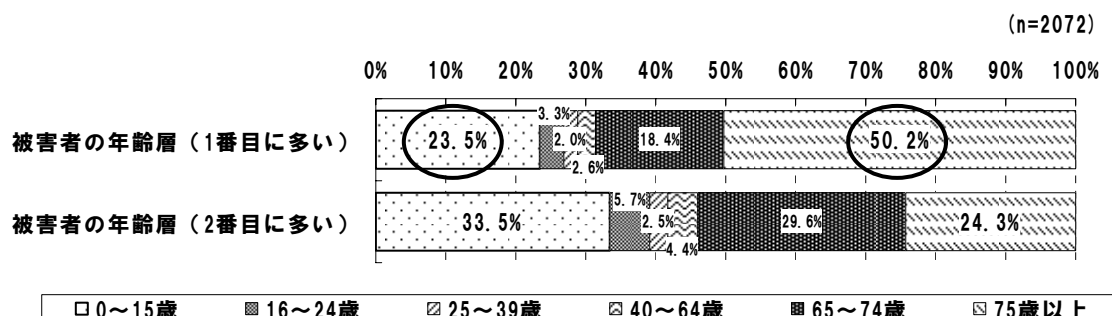
■加害者のイメージ（問 16）

- 加害者となる年齢層（1番目に多いと思われる）として回答が多かったのは、「16～24歳」（49.5%）であった。また、加害者となる年齢層（2番目に多いと思われる）として回答が多かったのは、「65～74歳」（28.9%）であった。
- 参考までに、前回調査（H16）では「16～24歳」（66.8%）が圧倒的に多く、逆に高年齢層を挙げる回答者はそれほど多くなかったことから、近年は、高齢者が加害者となる事故のイメージがかつてに比べて強くなってきていると考えられる。
- なお、平成20年における年齢層別免許保有者10万人あたり交通事故件数で見ると、アンケート結果と同様、16～24歳が1,776件と最も多く、次いで75歳以上が1,062人となっている。



■被害者のイメージ（問 17）

- 被害者となる年齢層（1番目に多いと思われる）として回答が多かったのは、「75歳以上」（50.2%）であった。また、被害者となる年齢層（2番目に多いと思われる）として回答が多かったのは、「0～15歳」（33.5%）であった。
- 参考までに、前回調査（H16）では「75歳以上」（33.5%）と「16～24歳」（32.3%）とが拮抗していたことから、加害者のケースと同様、近年は、高齢者が被害者となる事故のイメージがかつてに比べて強くなってきていると考えられる。
- なお、平成20年における人口10万人あたり交通事故死傷者数で見ると、最も多いのが16～24歳で1,341人、次いで25～39歳が1,043人となっており、75歳以上は337人とどまっている。



(3) 交通安全施策へのニーズ

■ 道路交通におけるリスク曝露量 (問 10)

- 徒歩、自転車や自動車等のいずれかで道路上にいる時間を合計すると、「1 時間未満」や「1～2 時間」といった回答が多く、合計で 67.2%を占める。
- 道路上にいる時間の回答者平均 105 分=1 時間 45 分を国民の平均道路時間とし、道路を利用している 1 時間あたりの危険性と道路以外の生活場所における危険性とを比較すると以下のように考えられる。

※不慮の事故による死亡数総数 37,966 人（厚生労働省「人口動態統計年報」H19）、交通事故による死亡数 8,268 人（同）より、

<道路上の危険> $8,268 \text{ 人} \div 1 \text{ 時間 } 45 \text{ 分} = 4,725 \dots (1)$

<道路以外の危険> $(37,966 \text{ 人} - 8,268 \text{ 人}) \div (24 \text{ 時間} - 1 \text{ 時間 } 45 \text{ 分}) = 1,335 \dots (2)$

したがって、道路上の危険 (1) \div 道路以外の危険 (2) = **3.5 倍**

<同じ方法で試算した H16 年調査時の値=4.2 倍>

※睡眠時間 7 時間 22 分（10 歳以上・平日値、NHK 放送文化研究所「国民生活時間調査報告書」H18）を道路以外の生活場所で過ごす時間から除いた場合は、

<睡眠を除いた道路以外の危険>

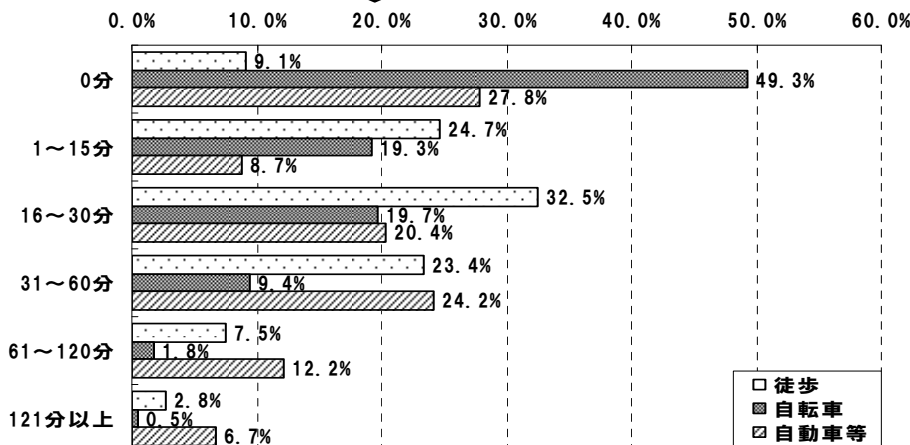
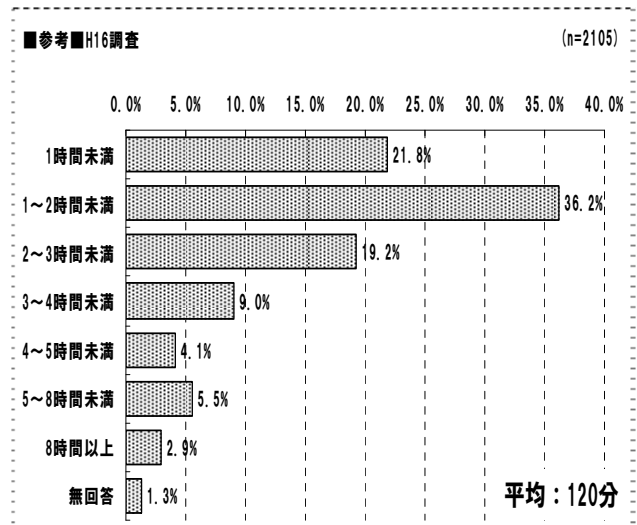
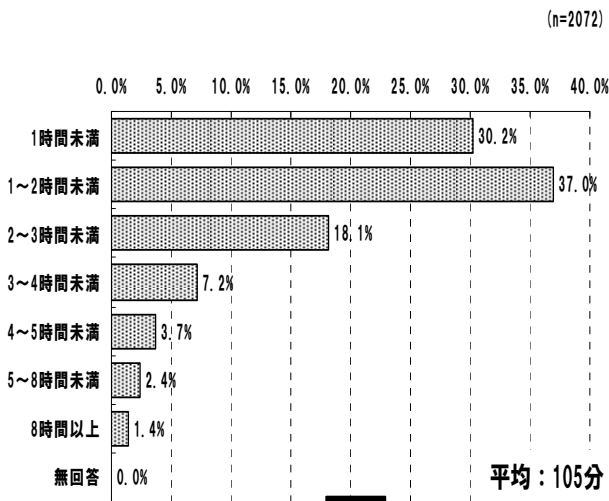
$(37,966 \text{ 人} - 8,268 \text{ 人}) \div (24 \text{ 時間} - 1 \text{ 時間 } 45 \text{ 分} - 7 \text{ 時間 } 22 \text{ 分}) = 1,995 \dots (2)$

したがって、道路上の危険 (1) \div 道路以外の危険 (2) = **2.4 倍**

<同じ方法で試算した H16 年調査時の値=2.7 倍>

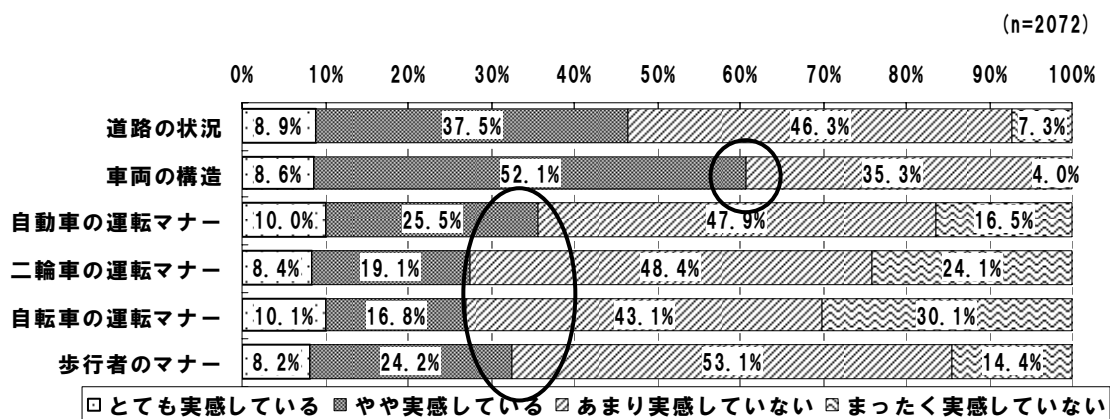
<今回 (H21)>

<前回 (H16)>



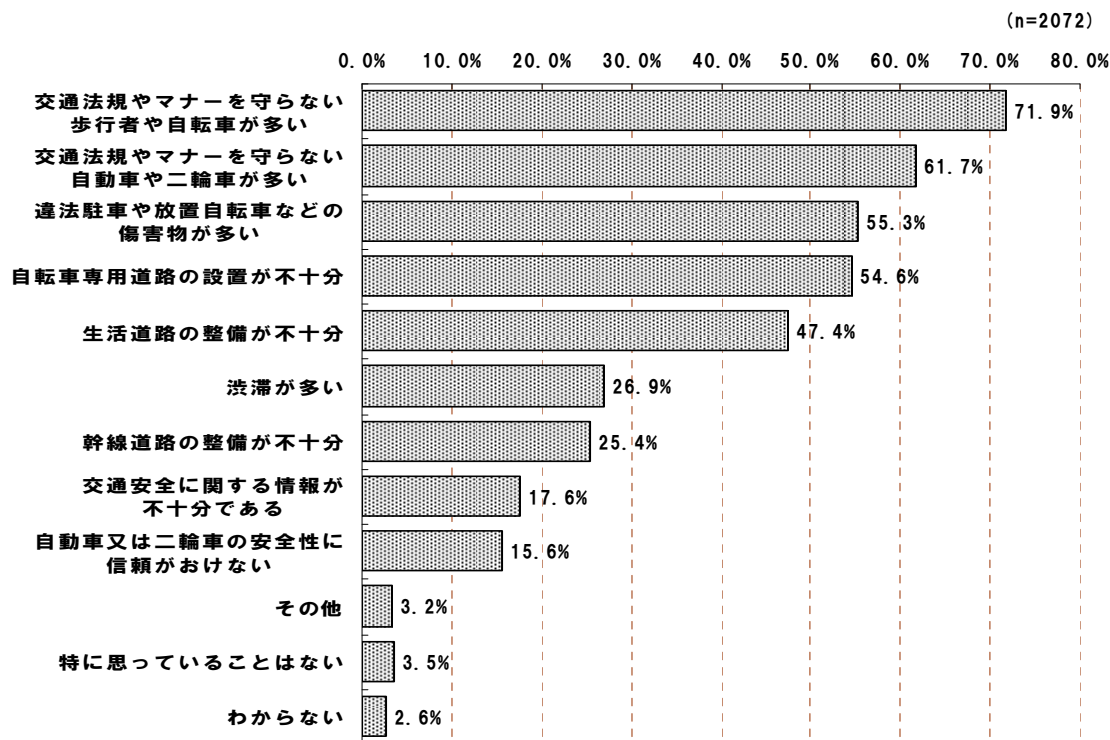
■道路交通に対する安全・安心の実感（問 23）

- 安全・安心を実感しているといった回答の方が多かったものとして「車両の構造」があげられる。
- 一方、「自動車」「二輪車」「自転車」「歩行者」のマナーについては、安全・安心を実感していないといった回答が6割を超えた。



■道路交通で不安に思うこと（問 26）

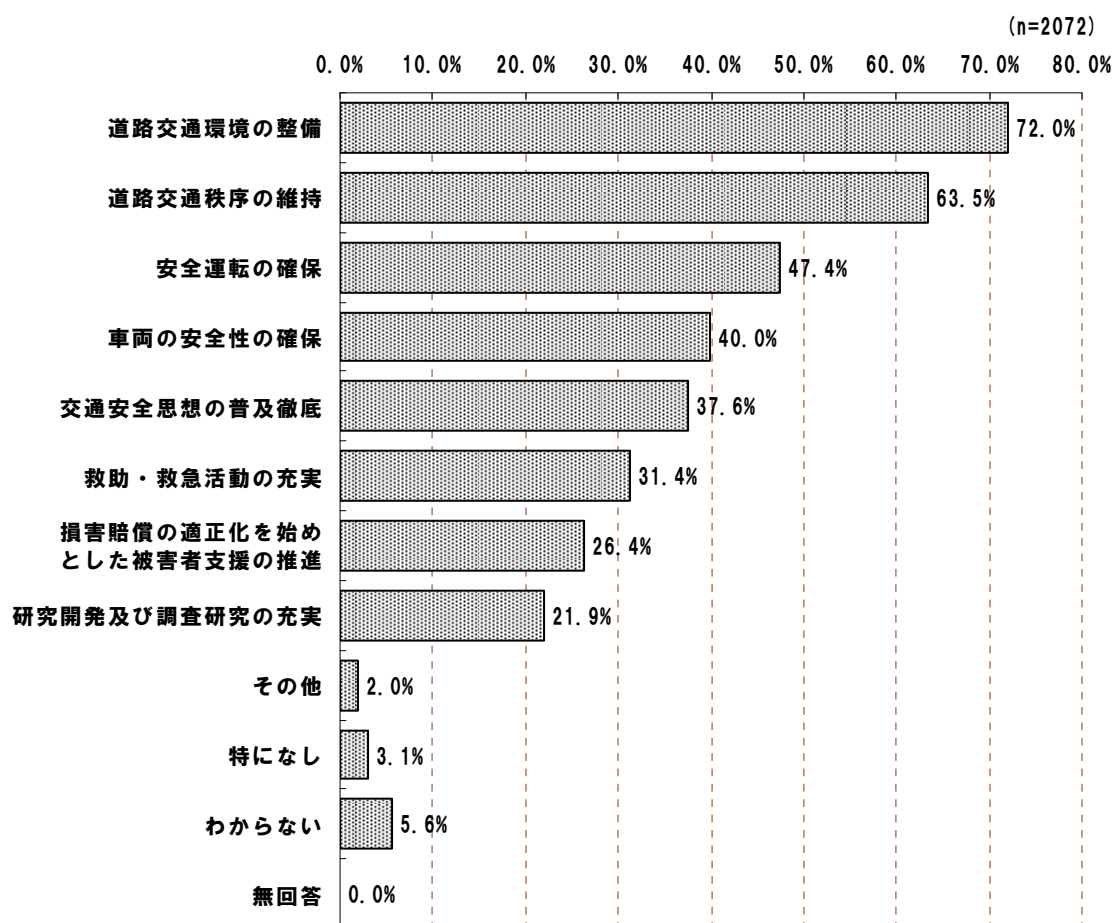
- 多かった項目は、「交通法規やマナーを守らない歩行者や自転車が多い」（71.9%）、
「交通法規やマナーを守らない自動車や二輪車が多い」（61.7%）、
「違法駐車や放置自転車等の障害物が多い」（55.3%）、
「自転車専用道路の設置が不十分」（54.6%）であった。



(4) 交通安全施策の評価

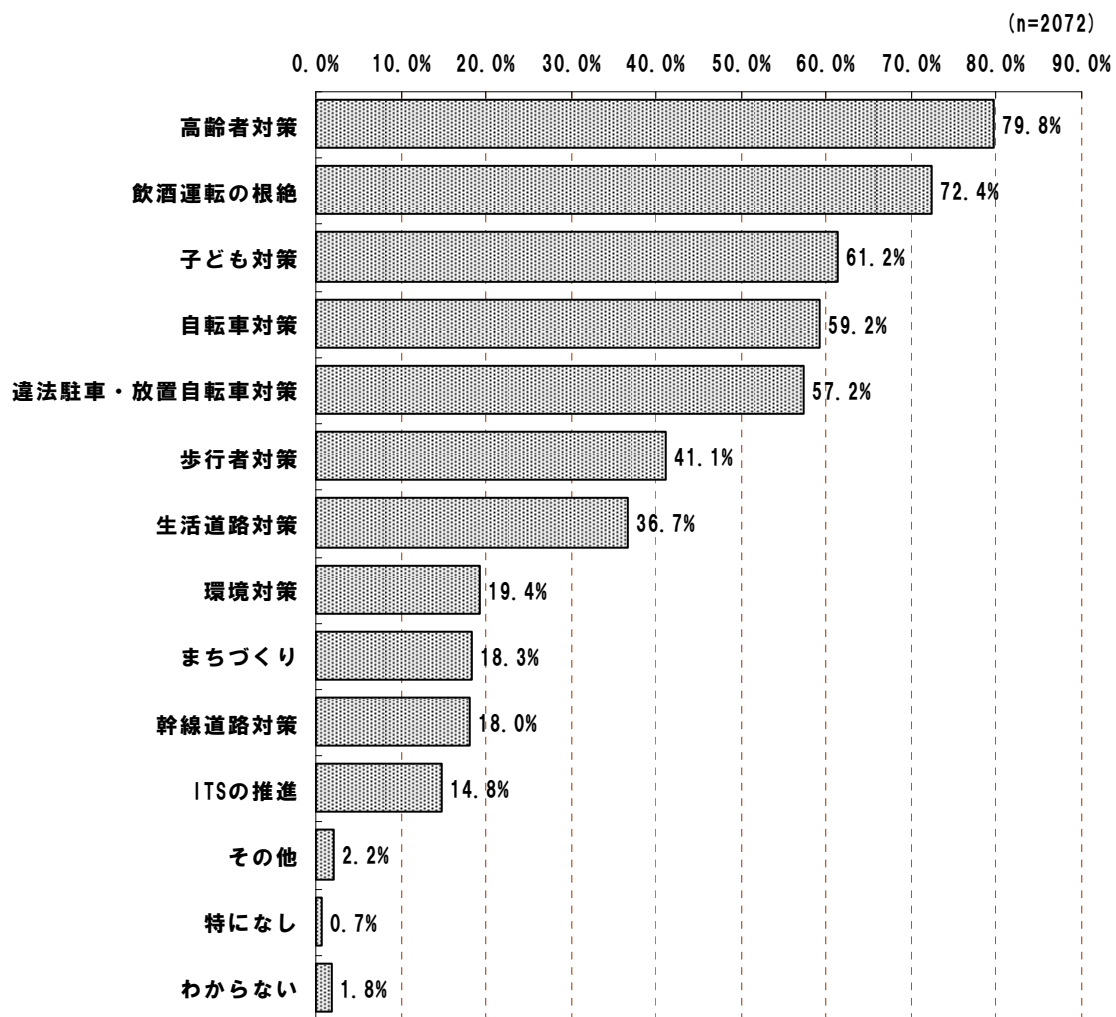
■ 今期計画（8計）の「8つの柱」（問27）

- 現在、進められている交通安全対策のうち、効果が高いとの回答が多かったものとしては、「道路交通環境の整備」（72.0%）、「道路交通秩序の維持」（63.5%）があげられる。
- 一方、効果が高いとの回答があまり多くなかったものとしては、「損害賠償の適正化を始めとした被害者支援の推進」（26.4%）、「研究開発及び調査研究の充実」（21.9%）があげられる。



■次期計画（9計）に求められる「キーワード」（問29）

- 今後の交通安全対策について重要だと思うキーワードとして特に多くあげられていたものとしては、「高齢者対策」（79.8%）、「飲酒運転の根絶」（72.4%）、「子ども対策」（61.2%）、「自転車対策」（59.2%）、「違法駐車・放置自転車対策」（57.2%）があげられる。



■国民に対する効果的な働きかけ（問 31）

- 交通安全問題の深刻さを国民に訴えかけるために、効果的である（「とても効果的」「やや効果的」）といった回答が特に多かったものとしては、「交通事故の苦痛や悲惨さの強調」（87.7%）（79.5%）があげられる。前回調査でも同様の結果が得られている。
- 一方、効果的であるといった回答があまり多くなかったものとしては、「交通事故の経済的損失の強調」（56.5%）、「道路上の危険と社会活動の危険の比較」（66.9%）があげられる。

